

銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 30 年 12 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

12 月	3 日	～	750 円/Kg
12 月	6 日	～	740 円/Kg
12 月	11 日	～	730 円/Kg
12 月	14 日	～	740 円/kg
12 月	19 日	～	710 円/kg
12 月	26 日	～	700 円/kg

平成 30 年 12 月度は平均で 727.30 円/kg となり、前月比 13.70 円/kg の値下がりとなりました。

海外銅価の動き

12 月の LME 銅相場	12/3～ 12/24 (安値ドル 5,931.50～6,307.00 高値ドル)
12 月の NYC 銅相場	12/3～ 12/26 (安値セント 266.85～279.95 高値セント)

12 月度の LME 現物は、12/3 \$6,307.00 でスタート。前月末中国国家统计局の発表した 11 月製造業購買担当者景況指数 (PMI) は 50.0 と 2016 年以來の低水準の発表となった。米中の貿易問題の推移へ注目が集まる中、取りあえずは 90 日間凍結の方向となったものの、相場は下げに動いた。ファーウェイ問題やトランプ米大統領の前向き発言など相反する動きにも警戒感が見られ、10 年ぶりに 12 万 t を割り込むような LME 在庫も、相場への影響は結果として小さく、銅相場は年初以來およそ 15% 安となった。

14 日中国国家统计局が 11 月鉱工業生産の伸び率を前年比 5.4% と発表。市場予想の 5.9% を下回り、ほぼ 3 年ぶりの低水準で銅の需要見通しが悪化した。世界的な貿易摩擦による経済への影響は大きい。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 10 月 資料より (単位/千トン)

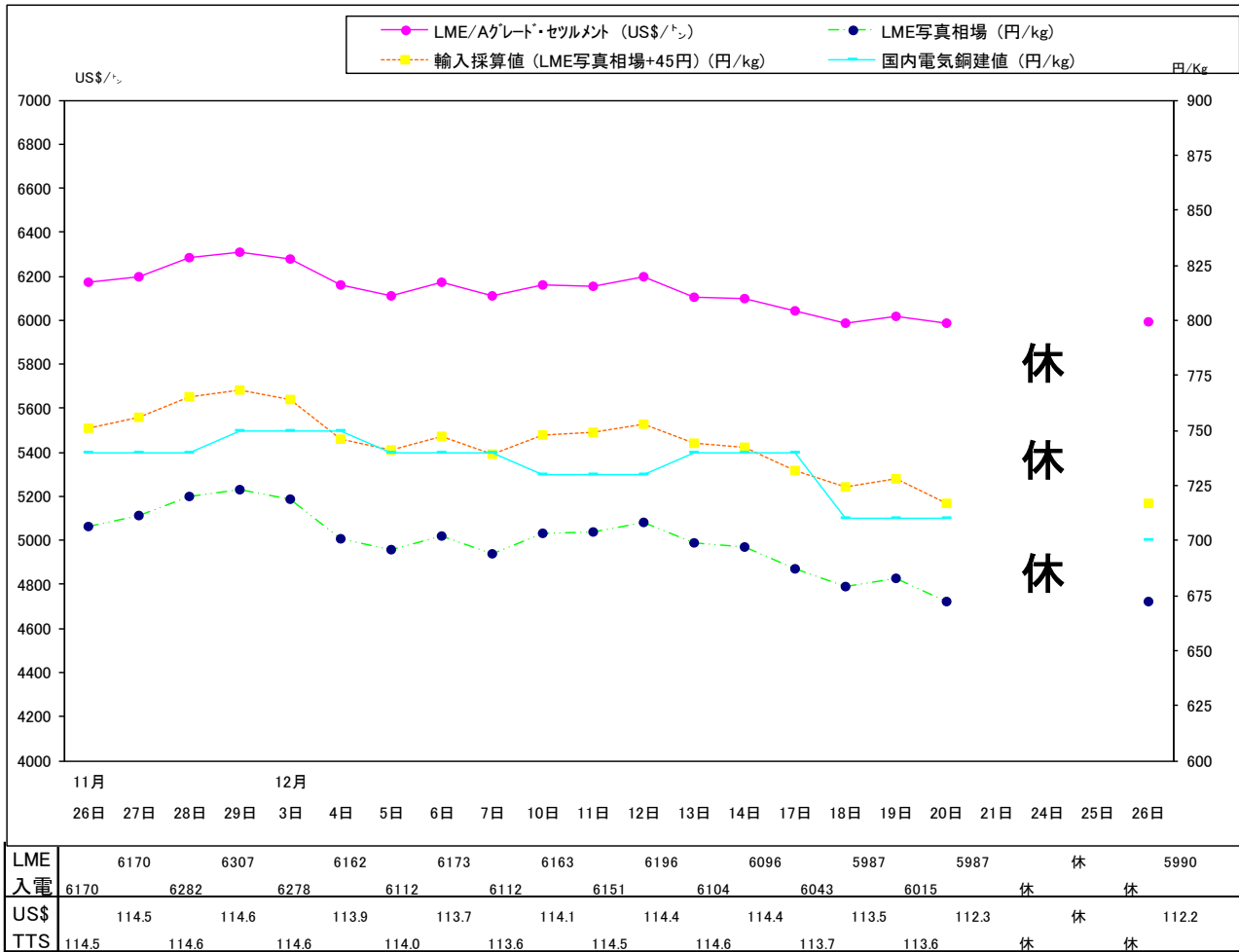
	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,078	23,491	+1.8%	23,998	+2.2%	24,917	+1.9%
全世界地金消費	23,136	23,703	+2.5%	24,234	+2.2%	24,665	+1.5%
全世界需給バランス	-58	-211		-236		-202	

先行き短期見通

国内銅価

12 月度の国内建値は 3 日 750 円/kg でスタート。6 日 740 円、11 日 730 円と LME 価格に連動する形で下げ方向に。米中の貿易戦争の影響は大きく、14 日 740 円と一旦上げに転ずるもその後は、為替円高の影響もあり 19 日 710 円、26 日 700 円と下げ、昨年 6 月以來の 600 円台も目前となった。12/27 付 LME \$ 5,990.00、27 日付 為替 (TTS) 1USD=112.20 円で日本円換算計算値 672 円/kg。2019 年 1 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、710 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年12月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 12月 3日 ~ 352 円/kg
- 12月 6日 ~ 361 円/kg
- 12月 11日 ~ 349 円/kg
- 12月 18日 ~ 343 円/kg
- 12月 25日 ~ 325 円/kg

平均345.10円/kg

平成30年12月は上記の通りで前月比 1.70 円/kg の値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	12月	286.00 円/kg	(前月比+	4.00 円/kg)
電気錫(相対)	12月	3,580.00 円/kg	(前月比-	40.00 円/kg)
ニッケル(溶解用)	12月中価格	1,350.00 円/kg	~ 1,400.00 円/kg	
銀	11月平均	53,750.00 円/kg	(前月比-	560.00 円/kg)
	12月27日	55,200.00 円/kg		
金	11月平均	4,474.48 円/g	(前月比+	41.43 円/g)
	12月27日	4,567.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

平成30年11月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		10月度実績	11月度速報	前月比	前年11月度実績	前年同月比
銅	板	1,361	1,560	14.6%	1,280	21.9%
	条	24,550	24,173	-1.5%	23,397	3.3%
	管	10,336	9,842	-4.8%	9,689	1.6%
	棒	2,331	2,331	0.0%	2,326	0.2%
	線	332	263	-20.8%	289	-9.0%
黄銅	板	634	593	-6.5%	604	-1.8%
	条	10,384	9,352	-9.9%	9,808	-4.6%
	管	602	538	-10.6%	728	-26.1%
	棒	16,117	16,544	2.6%	16,286	1.6%
	線	2,668	2,738	2.6%	2,547	7.5%
青銅	板	2,531	2,401	-5.1%	2,912	-17.5%
	条					
	棒	250	247	-1.2%	245	0.8%
	線	74	63	-14.9%	70	-10.0%
洋白・その他	板	572	533	-6.8%	509	4.7%
	条					
	棒	37	44	18.9%	36	22.2%
	線	462	419	-9.3%	423	-0.9%
合計		73,241	71,641	-2.2%	71,149	0.7%

11月の伸銅品生産速報は、71,641トンで前月比マイナス1,600トン、前年同月比+0.7%となり、前年同月比が2ヶ月連続でプラスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の9月分実績及び10月分推定によれば、9月分の総計は5万6千910tで前年同月比5.4%減少。台風、地震の影響や一部材料手配の影響などもあり7部門すべてが前年同月を下回った。4月以降8月まで連続5カ月間前年を上回ってきたが、6カ月ぶりに前年を下回った。この結果、18年度上期(4～9月累計)の銅電線の主要7部門別推定出荷量は、電気機械やその他内需、電力などの4部門が前年を下回ったものの、建設電販と自動車、輸出の3部門が健闘し、総計は34万2千136tで前年同期比1.7%増加した。これによって、18年度上期は前年同期を上回るペースで折り返し2年連続の伸長が確定した。一方、10月の銅電線ケーブルの出荷推定では、建設電販が3万1千tで前年同月比6.6%増と徐々に3万tを上回り、総計も6万4千300tで同2.6%増とやや盛返す見通しで、オリンピック他の首都開発案件が動き出している。

また、9月分の部門別出荷量をみると、光化ヘシフトが進む通信は6.8%減。台風や材料調達の影響があった電力も3.4%減。FA・ロボットケーブルが踊り場に入った電気機械も7.1%減。台風や地震の影響を受けた自動車は7.0%、同様に建設電販も0.7%減となった。しかし、自動車については10月は盛返し同6.2%増の見通しで、建設電販も前述の通り案件が動き出している。

その他内需は台風の影響が響き7.2%減少も10月は9.4%増とした。輸出はスポットの需要が弱く同39.2%の減少となった。

2018年9月分(実績)・2018年10月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	9月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	10月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	9月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	853	1.1	▼ 6.8	1,000	17.2	1.5	1,400	(▼3.8)	▼ 3.2
電力	(2,015)	(57.8)	(30.3)	(1,500)	(▼25.6)	(▼0.5)	1,519	(54.1)	(32.4)
電気機械	4,343	12.6	▼ 3.4	4,500	3.6	▼ 1.8	5,286	12.7	14.0
自動車	(399)	(30.4)	(0.3)				391	(32.1)	(4.5)
	11,798	3.9	▼ 7.1	13,300	12.7	0.1	16,644	3.1	0.0
建設・電販	(83)	(9.2)	(▼ 20.2)				339	(9.4)	(27.9)
	6,931	15.2	▼ 7.0	7,800	172.5	6.2	31,964	14.7	▼ 2.4
その他内需	(25)	(92.3)	(▼45.7)				23	(0.0)	(▼14.8)
	26,980	▼ 1.9	▼ 0.7	31,600	17.1	6.6	31,094	▼ 3.6	▼ 0.7
内需計	(73)	(▼6.4)	(▼15.1)	(600)	(3.4)	(▼10.7)	63	(▼29.2)	(▼8.7)
	4,281	2.2	▼ 7.2	4,900	14.5	9.4	6,883	3.8	▼ 3.9
輸出	(2,595)	(48.3)	(19.0)	(2,100)	(▼19.1)	(▼3.7)	2,334	(36.9)	(24.0)
	55,186	2.6	▼ 3.8	63,100	14.3	4.6	93,272	4.7	▼ 0.7
合計	(350)	(1566.7)	(348.7)	(100)	(▼71.4)	(9900.0)	86	(309.5)	(138.9)
	1,730	34.7	▼ 39.2	1,200	▼ 30.6	▼ 48.3	5,776	17.5	▼ 44.8
心線販売	(2,945)	(66.3)	(30.4)	(2,200)	(▼25.3)	(0.9)	2,420	(40.2)	(26.2)
	56,916	3.4	▼ 5.4	64,300	13.0	2.6	99,048	5.4	▼ 5.1
	(1,373)	(31.0)	(36.2)	(1,300)	(▼5.3)	(29.7)	384	(31.1)	(47.1)
	29,695	9.4	▼ 3.9	33,000	11.1	3.9	21,106	4.0	▼ 4.9

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2018年9月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,349	3.6	▼ 21.2	3,145	11.2	▼ 12.5	
巻線	10,965	6.2	▼ 5.5	12,048	6.1	6.2	
機器用電線	3,413	▼ 0.2	▼ 4.1	9,979	1.1	▼ 1.7	
通信用電線・ケーブル	1,390	▼ 5.6	▼ 11.9	31,337	▼ 3.5	▼ 7.6	
電力用電線・ケーブル	21,449	3.1	▼ 2.5	22,668	2.4	▼ 11.6	
被覆線	10,710	▼ 1.1	▼ 4.8	14,986	▼ 1.9	▼ 3.9	
輸送用電線	5,640	13.6	▼ 5.2	33,084	13.0	▼ 4.6	
銅電線計	56,916	3.4	▼ 5.4	99,048	5.4	▼ 5.1	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	65	▼ 21.7	▼ 8.5	226	▼ 17.5	▼ 10.7
	電力用電線・ケーブル、被覆線	2,931	▼ 2.0	▼ 4.1	3,381	▼ 2.8	▼ 2.7
計	3,001	▼ 2.7	▼ 4.3	3,644	▼ 4.1	▼ 3.2	
アルミ電線計	2,945	66.3	30.4	2,420	40.2	26.2	
光製品	4,218,526	▼ 4.4	▼ 6.4	22,020	▼ 3.0	▼ 8.0	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	4,615	3.9	2.0	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場の第1週は、米中貿易摩擦関連の情報で狭いレンジでの展開に終始。米中貿易摩擦に関する首脳会談の内容について具体性に欠ける内容であったことから、引き続き市場では慎重な姿勢となる。米国債で、短期金利が長期金利を上回る現象がみられ、景気後退懸念となる。中国通信機器大手・華為技術の幹部が、米国の制裁措置違反を理由にカナダで逮捕され、米中对立激化の懸念から株式市場は軟調で、アルミ相場も下落。第2週、華為CFO保釈、英メイ首相信任の可能性の高まり、伊政府が対GDP比2%の財政赤字目標をEUに提出との報道、米中貿易協定の合意期待など、リスクオンで底堅いものの、中国アルミ輸出が前月比、前年比で大幅増となり上値も抑えられる展開。第3週、第4週、中国11月鉱工業生産、小売売上高などいずれも弱い内容で同国の経済失速の兆候を示す結果となりアルミを含むメタル全般が軟調に推移。FOMCでの2019年の想定利上げ回数の2回への減少から進んだドル安を材料に、一時\$1,935まで上昇。しかしルサールや親会社En+への制裁解除の方針が発表されると再び下落。休み明け26日の米株価は\$1,000以上の史上最大となる上げ幅を見せ、リスク回避姿勢は緩み、安全資産とされる円も売り戻された。オープン後は反発が予想されるが上値は言的であり、\$1,900ラインでの攻防での推移予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年12月積 2,099.00～2,076.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年12月積 250.00～247.20 円/kg
- ・NSP 2018年10月 286.60 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2019年1月～3月 290.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年10月	'18年11月	'17年11月
月生産	*2,364.0	2,287.0	2,288.0
平均日産	*76.3	76.2	76.3

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

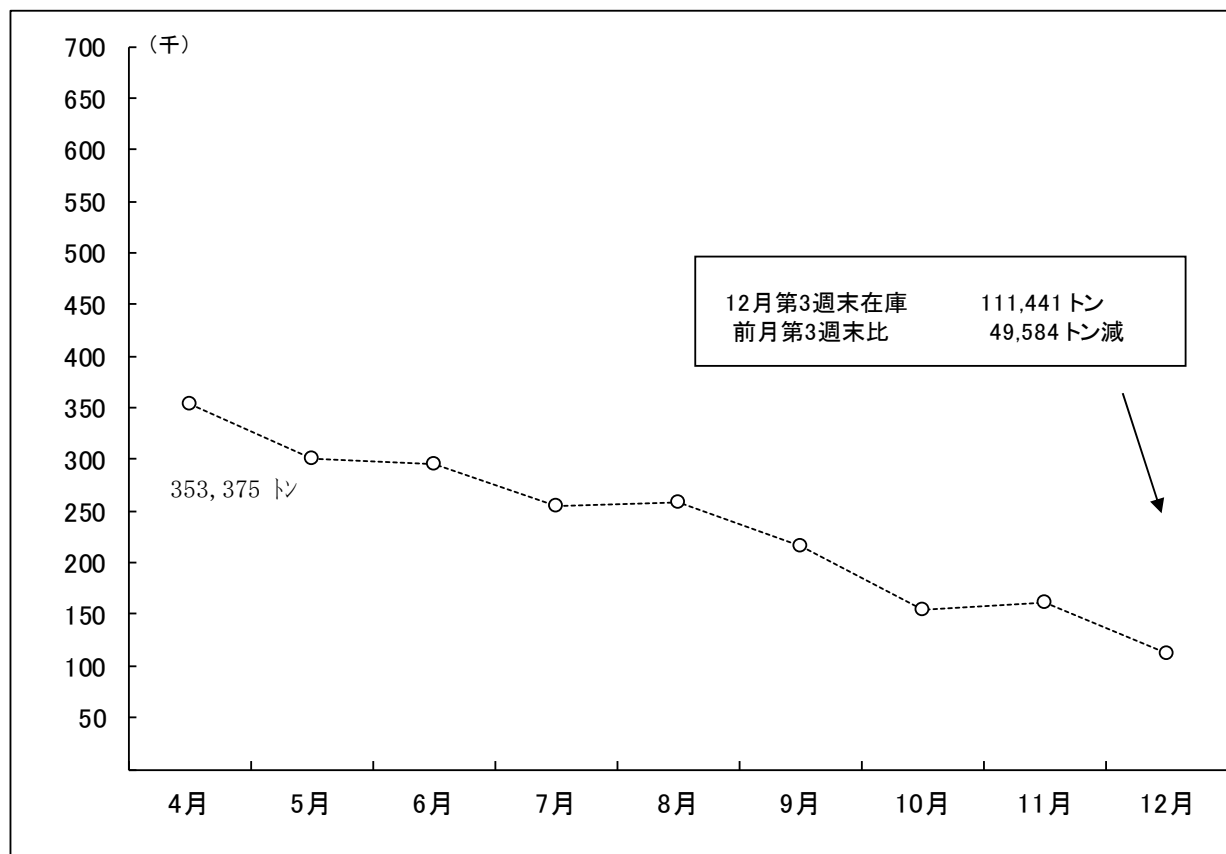
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年8月	2018年9月	増減	2017年9月	増減
横浜	166,200	158,500	-7,700	135,200	+23,300
名古屋	142,400	144,700	+2,300	125,700	+19,000
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	323,600	318,200	-5,400	275,900	+42,300

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・30年12月21日現在 129,725 S T 前月比 16,451 S T減

◎ 国内山元電気銅在庫

・30年10月末 96,481 トン 前月比 6,298 トン減

◎ 伸銅品生産実績

・30年10月確報 73,241 トン
・30年11月速報 71,641 トン 前月比 97.6%

◎ 電線出荷実績

・30年11月速報 64,200 トン 前月比 99.8%

◎ 軽圧品生産実績

・30年 11月	板 類	103,148 トン		
	押 出 類	70,329 トン		
		<hr/>		
		173,477 トン	前月比	97.9%

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。